慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	前号目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1957
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.50, No.2 (1957. 2) ,p.100(28)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19570201-0028

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

えようとする考え方がある。これは産業構造の變化と言つた客觀的要因の變化も生活水準に影響を與えると言う思想によるものであるが、生活水準の指標としても無條件に受け容れることはできない。第一にかかる意味を持たせるには生産指數と雇用指數が全産業に亙つていてこそ初めて可能となるが、現在のところ商業やサービス業まで含めた數字がないことである。第二は生活水準指標として用いるには完全雇用が達成されていて、有業者一人當りの實質所得水準としての意味を持つなら一應認められるが、不完全雇用下では單に就業者の一人當り平均生産力を意味するに過ぎず再び生産の問題に戻つてしまう。しかも假にこの二つの前提が充されても平均的に計算する限り、分子たる生産指數は附加價値更に正確に言えば純所得を指數化したものとなり、就業人員の中には雇用主も職員も含める必要がある。

三田學會雜誌

第五十卷　第一號　目次

論說

經濟心理學における同型理論Ⅱ……中鉢正美

地方産業の現狀と問題……青沼吉松

——遠州綿織物業を事例として——

アメリカの土地投機に關する一研究…中村勝己

——Holland Land Company の場合——

資料

最近における物價史研究の動向……渡邊國廣

書評及び紹介

D・ハンフレイ著『アメリカの輸入』……白石孝

三菱經濟研究所「世界貿易—自由化問題の背景」……白石孝

岡稔著『ソヴェト工業生産の分析』……加藤寛

T・W・ハチスン「經濟學者としてのベンサム」……服部成三郎

經濟學關係文獻目録

古典學派の崩壞と「賃勞働」分析の轉換

——J・S・ミル——

井村喜代子

一節　ミルの時代

二節　ミルの資本主義體制の把握

三節　ミルの「賃勞働」問題の分析

四節　むすび

一、ミルの時代

「ベンタム主義の時代」(註1)とよばれる一八二五年以降の半世紀は、新興資本家階級が舊支配階級地主に對し、新しい大工業制度を承認せしめつつ、自由の原則の名において自らの利益を徹底的におしすすめていつた時代である。

三二年の選擧法改正によつて政治的權力を擴大した新興ブルジョアジーは、三四年には勞働能力ある者への院外救助を廢止する新救貧法を制定し、勞働力支配の自由・救濟負擔からの自由を完全なものとした。さらに四六年・穀物法廢止において彼等の勝利は決定的となり、つづく四九年の航海條令の廢止、五三・六〇年の輸入關稅の全面的改正を通じ、スミス以來待望の自由貿易の原則が着々と實現され、ここに、イギリス産業資本の海外征覇の途がひらかれていつた。

しかしながら、新興ブルジョアジーが産業革命をいわば政治的に完成していくこの過程は、他面からみれば、勞資の階級對立が激化する過程でもあつた。大工業制度の進展(註2)とそれにともなう周期的恐慌による勞働者階級の窮乏化、窮乏打開のために議會改革運動へ參加した勞働者に對する三二年の資本家の「裏切り」と新救貧法、——これらは勞働者の階級的自覺をたかめ、二〇年末以降全國的組織化をすすめつつあつた勞働組合をして、政治的チャーチスト運動へと結集した(註3)。三〇年後半の不況を背景とした蜂起、「四〇年代の飢餓」(註4)のもとで續發した工業地帶の大ストライキと結びついた大昂揚は、プロレタリヤの階級的・政治的成熟を示すものとして、勞働運動史上の一時期を劃する。

しかし、チャーチズム指導者の思想的・組織的不統一性(註6)は、反穀